

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400609		
法人名	社会福祉法人 星隆会		
事業所名	グループホーム 暖らん		
所在地	島根県出雲市塩冶町南町1丁目1-37		
自己評価作成日	令和4年1月31日	評価結果市町村受理日	令和6年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	令和6年2月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木を多用した建物の中で家庭的で、暖かい雰囲気を大事にしている。独自の歌集を使った歌唱、ミュージック・ケアなどの音楽療法的活動、クラフト、福祉レク用具を使った運動やゲーム、脳トレ、DVDや写真を使った回想法、野菜作りなど多様な活動を認知症の非薬物療法として実施している。諸活動を行うためのホールも活用している。歩いて数分のひかり保育園とは、散歩や季節の行事で相互に訪問しあい園児との交流を楽しんでいる。今年度、項目形式による介護記録を導入して、ご利用者や家族の発言や思いを意図的に記録し、利用者に寄り添うケアに生かしている。独自開発のデータベースシステムとパソコン、タブレットにより全ての介護記録業務をICT化して業務の効率化とサービスの向上に生かしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

受け持ちによるリハビリやレクレーションを計画、実行したり、今年採用の理学療法士による個別リハビリや福祉用具の適正化が行なわれている。介護予防にも繋がっている。広い活動スペースがある「にこにこルーム」での音楽療法や平行棒による運動や回想法など非薬物療法を重視している。ICTを使って項目別ケア記録を独自開発し、職員全員が活用し共有することでサービス向上や業務の効率化に繋がっている。転倒を繰り返す利用者の安全性と睡眠妨害を考えて見守りカメラを運用し、利用者、家族や身体拘束ゼロ委員会、運営推進会議メンバーとも意見交換しながら対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念等を記した職員ハンドブックを全職員に作成・配布し、採用時や事業所内研修などで説明し、共有に努めている。また、理念を所内に掲示している。	理念や行動規範、マナーなど書かれた職員ハンドブックを基に職員同士で共有している。法人内研修で説明しケアの実践に結びつけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	読書のボランティアに来てもらっている。利用者の作った畑の野菜や行事でついたお餅をご近所にお配りした。散歩や季節の行事などで保育園園児との交流を行っている。	読書会のボランティアの関わりや近隣の人達とは日頃から声をかけてもらったり、野菜やお餅のお裾分けをしている。近くの保育園児とは行事や散歩を通して交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	畑の作物をご近所の方にご利用者の手からお持ちした折りに、「上手に作られますね、またお願いします」と言葉をいただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	見守りカメラの導入、感染症や災害時の対応や避難についてお諮りして、業務やサービスに活かした。	利用の状況や行事、活動など「暖らん便り」を参照しながら報告し意見交換をしている。歩行不安定で転倒を繰り返す利用者の安全性や睡眠を妨げないよう見守りカメラの導入や運営について意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での報告やご相談を中心に相談している。特に見守りカメラの導入について市からの見解をいただき、参考にした。	担当者とは運営推進会議を通して相談したり不明なことがあれば随時助言を得ている。見守りカメラ導入についても意見交換をして対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロ委員会」の結果を職員会で共有し、協議している。職員会議で「高齢者虐待」をテーマとした研修を行った。日中玄関の施錠はしていない。	年4回は委員会を通して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。帰宅願望のある利用者には一緒に散歩をおこない気分転換したり、転倒しやすい利用者には夜間の見守りカメラで安全を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を開催した。職員会議の研修で取り上げた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者があり、所内の社会福祉士が利用についての支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、管理者と計画作成担当者がわかりやすく、ていねいに説明、疑問に答えるなどして、納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃利用者からの要望や意見は記録してカンファレンスや職員会で取り上げる。家族から面会や電話、メールを通じて寄せられる意見や希望には都度対応する。	利用者からは日々意見等があれば介護記録に記載して話し合いをしている。家族の心配事や要望にはその都度説明し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎回理事長も出席する職員会では、運営についての職員からの意見を取り上げ、運営に生かしている。	年1回の理事長面談や月1回の職員会議で意見や提案を取り上げ、運営やケアに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長が年に1回以上職員との個人面談を行うほかにも折々に個々の職員と話の場を持っている。個々のワークライフバランスの希望に合わせた働き方ができるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に沿って所内外での研修受講を進めている。今年度の所外研修は実践者研修、認知症介護実践者、ユマニチュードを受講した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修で他受講者の中での交流や情報収集を意図的に行って、職員会などえ報告してもらおうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉や行動から不安や困りごとなどを察知しながら、家族、主治医などからの情報も参考にしながら関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	昨年度末に新規利用が一人あったが、今年度もご家族と連絡を取り合い、相談したり、心配事や要望を聞き取ることに努めた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々の様子を観察し、こまめにカンファレンスを行い支援内容を迅速に検討し修正しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の「強さ」「役割」に注目して支援している。炊事・洗濯・掃除などの家事のほか、どなたも何か役割を発揮できる機会を作るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の連絡、心配事など丁寧に答えるようにしている。隔月発行のお便りや写真などで利用の様子を家族に知らせるとともに、電話やメールで頻回に情報交換している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染に注意しながら家族知人との面会をしてもらっている。自宅と一緒に帰る支援も行った。	コロナ感染などに留意しながら家族や知人と居室での面会が可能になっている。面会時間も臨機応援に対応している。利用者の中で県外にいる家族の協力を得て自宅に帰る支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置などを工夫し、馴染みとなった利用者が隣り同士で笑顔で交流し、支え合う姿が見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年の利用が終了したケースはなかった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	項目形式の介護記録を開始し、項目の中の「発言、表情」に日々の表情やことばを意識的に丁寧に観察し、記録するようにしている。それを共有しながらニーズの把握に生かしている。	ICT化で介護記録の見直しがされ日々の生活の中で見られる行動や言葉、表情から思いを把握して記録し課題を抽出しケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人、それまでの支援者からの情報収集に努め、職員と共有している。本人の話から収集できる情報も活かしてゆく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を観察を、職員間で記録、共有し、毎月の職員会や不定期のカンファレンスでケアに生かすようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	不定期のカンファレンスや職員会議、担当制などを生かして介護計画を作成、更新している。項目形式の記録の中に「フォーカス」の項目では新たな課題を記録しそれを共有する。	独自開発の介護記録「フォーカス」で課題を抽出して、本人、家族、受け持ち職員や状況に応じて医療関係者とも話し合い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ICT化された日々のケア記録、伝達ノート、受診記録、ヒヤリハット、事故報告などの記述を職員間で共有し、必要に応じてカンファレンスで見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者ごとのリハビリやレクメニューを実施する、理学療法士職員によるリハビリを実施する、作物を近所に配る。保育園児との共生ケアを目指すなど行なった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人内保育園との交流、ご近所とお付き合いなどを支援に利用した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の近隣にある診療所を主なかかりつけ医として定期的な往診、夜間、休日の相談ができるようにしている。	近隣で24時間対応可能な診療所で訪問診療や時間外対応を受けている。診療以外にも相談支援を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	近くにある訪問看護ステーションとの業務委託によって、毎週看護師が訪問し、また臨時に対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は主治医、訪問看護師と適宜連絡取り合っている。入院時情報提供は速やかに行なっている。退院カンファレンスを行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化への対応を見据えて、訪問看護ステーションと連携している。重度化対応指針を作成し、ACPIについて職員会で研修した。それを意識したご家族との話し合いの場を数人のご利用者について行ない、記録した。	重度化対応指針を基に重度化や終末期について利用者、家族と意向含め話し合いを行なっている。重度化した場合はかかりつけ医や訪問看護師と連携しながらチームで支援を行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを使用した救命救急の所内の講習を行った。研修会で急変、事故発生時の対応について研修した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	規定の消防訓練を行なった。作成したBCPに従って災害時の使用車による避難の実地訓練を行なった。	BCPを基に自然災害時訓練を行なっている。避難場所にも利用者と共に訓練を行なっている。昨年の夏には大雨によるホーム向かい側にある川の洪水の恐れがあり避難の準備をしていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の生活歴を知り、認知症、権利擁護、虐待防止の研修を受けた上での対応を行なっている。特に言葉遣い、接遇の研修は繰り返し取り上げた。	常に接遇に関して意識を高く持つよう毎月の職員会議で研修を継続して行なっている。「認知」や「指示」という言葉を使わないよう話し合いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を大切にすることを目的に項目形式の記録を開始し、日々の生活の中で汲み取り、記録してゆくことにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の活動や行事ごとのたびに、～しませんか、何がいいですか？と、一人ひとりの好みや意向を尋ね、尊重するようにしている。画一的でなく個々に合わせた参加をしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの衣類を着ていただき、季節ごとに衣替えし、家族から新しいものを購入していただく。整容に心がけ。クリームや入浴時の洗剤、洗顔剤など継続していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に調理レクやおやつを一緒に作ったりしている。また日々準備や片づけと一緒にしていただいている。畑で作物を一緒に育てて、収穫もしている。	専任の調理員中心に手作りの食事や週1回は外注の食事を提供している。ちらし寿司や鍋料理などを職員と一緒に準備、片づけをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養、形態、量、好き嫌い、食器など一人ひとり工夫している。食事、水分量などをデータベースに記録し、グラフ化して評価に利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方には継続してもらい、必要な声かけや見守り、介助をしている。義歯の洗浄剤は、自己管理が困難な方に対しては職員が管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時刻、量、内容などを下剤服用の情報とともにデータベースに記録し、グラフや排泄パターン把握に生かしている。トイレ案内、排泄方法など頻回にカンファレンスで見直している。	一人ひとりの排泄状況をデータベースに記録し個別支援に繋げている。排泄用品や支援方法などカンファレンスで話し合い共有して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の状況をデータベース記録、グラフからの確に把握し、水分の勧め、運動、医療職への相談などして対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在原則週2回のペースで入浴していただいている。特殊浴槽でできるだけ温浴を楽しんでいただくよう努めている。時間帯は日中としている。	スライドして浴槽に入れる浴槽のためADL低下が見られても無理なく入浴を楽しんでいる。日中、楽しみに入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝の習慣を尊重し、就寝時の居室の環境は利用者の希望を尊重している。就寝時間や就寝前の過ごし方も自由にしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の様子の観察をもとに、主治医、家族、本人と相談し、連携して適正な服薬支援に努めている。薬剤師居宅療養管理指導を受けている利用者は薬剤師のアドバイスを受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、洗濯物たたみ、掃除、テーブル拭き、雑巾縫い、畑づくりなど生活の中の役割を持っていただいている。レクリエーションは色々な内容の楽しみを提供できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	自宅の訪問や、気分転換の散歩、ドライブへの参加の機会を提供している。散歩や行事で近くの保育園に行くこともよくある。	敷地内の畑で野菜作りを楽しんだり外出のニーズを聞きながら大社への遠足や民俗館、博物館に出かけたりしている。保育園の行事に出かけたりもしている。自宅へ外出希望がある利用者には家族の協力のもと支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族と相談して、手元に所持するお金について決めている。不安や混乱につながることもあり、その方にあった方法を選んでいる。希望する品物は買ってくるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用している利用者がいる。暑中見舞いや年賀状など送る事ができるように日々の創作レクの活動に取り入れている。職員が介在してビデオ通話も利用される。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木を多用した建物で居心地のよい環境づくりに努めている。和室で寛ぐことも多い。花、絵や創作した壁絵をかけたたり、保育園児の創作を置いたりして親しみのある空間作りに努めている。	玄関、ホール、活動ルーム「にこにこルーム」には外出先の写真や手作り作品、同法人の保育園児の作品などが飾られていて明るい雰囲気になっている。「にこにこルーム」にはピアノや平行棒があり音楽や運動などに使われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間で他者と話したり、テレビや新聞をよんだり過ごす方、居室で休んだり、趣味活動をして過ごす方、和室で過ごす方、それぞれ自由にされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談しながら、馴染みの調度品を置いていただいている。家族の写真や誕生日色紙、創作物など思い思いに飾っている。	馴染みの調度品や写真、創作物など利用者がそれぞれの思い出のものを飾っている。生活用品が多いことで混乱を招く利用者に対しては整理して配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子はその人に合わせたものを選び、必要に応じてクッションや足台、背サポートなどを使用している。手すりを追加したり、トイレ等のサインもわかりやすいよう手直している。		